

ヤエヤマアオキの着果に及ぼす温度の影響

○外間数男¹⁾・伊良波幸和¹⁾・多宇正裕²⁾ (1)沖縄農研名護 (2)多宇農園)

Effect of temperature on fruiting of great morinda (*Morinda citrifolia* L.)

Hokama, K., Iraha, K. and Tau, M.

ヤエヤマアオキの果実は集合果である。花は頭状に集まり、出蕾後は蕾の成長・果実の肥大とともに漸次開花する。沖縄では3～4月頃に出蕾し始め、気温の上昇にともない多くなり、8～10月頃ピークとなる。その後気温の低下にともない着果数は減少し、冬期に停滞する。着果肥大には温度の影響が大きい。今回着果と温度の関係を検討した。

【材料及び方法】

露地試験は沖縄在来（藪地島系統）とフィリピン導入系統を供した。また施設栽培にはハワイ及びインドネシア導入系統も併せて用いた。露地試験は2001年10月植の3年樹と2003年5月植の1年樹を供し、2004年8月から12月まで収穫調査を行った。また施設栽培では2004年10月に植付け、2005年8月から翌年の1月にかけて調査した。収穫調査は8月から12月まで毎週とし、それ以降は隔週で行った。収穫は果皮退色度合で判断し、1/3退色を熟果とした。露地試験は名護市屋我地、施設試験は農研センター名護支所の大型鉄骨ハウスで行った。温度は沖縄気象台名護側候所の観測データを用いた。

【結果及び考察】

露地3年樹では8月下旬から収穫開始し、翌年の1月まで調査したが、10月までに全体の60%、12月までに90%以上が収穫された。また1年樹の供試2系統は10月までに70%以上が収穫され、気温の低下にともない収穫果数や収穫量は減少した。藪地島系統はフィリピン系統に比べ着果数や収量が大きく推移した（図1）。

一方施設では前年の10月植付けであったことから、8～9月まで低収で推移したが、11月以降に増加し、12月までに80%近くが収穫された。調査は翌年の1月まで継続したが、着果数の減少で打ち切った。収穫果数は藪地島とフィリピン系統で多く、収穫量はインドネシア、ハワイ系統が多かった。インドネシア、ハワイ系統は、着果数は少ないが、果実の大きいことで収量は多くなった。施設栽培ではフィリピン系統が藪地島系統より着果数、収量がやや高まった（図2）。

露地3年樹の収穫果数は気温の低下にともない減少し、12月下旬以降極めて少なくなった（図3）。また着果数は2ヶ月前の気温と密接に関連し、温度の高いほど着果数は多くなった（図4）。

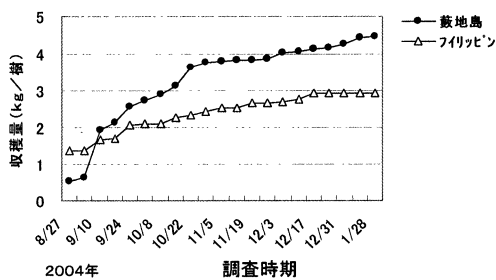


図1 露地における収穫量の推移

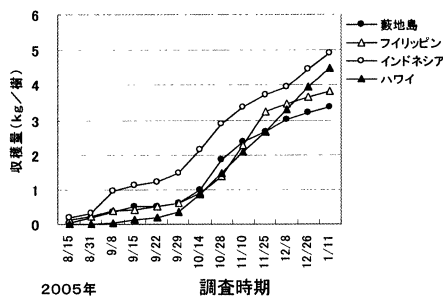


図2 施設における収穫量の推移

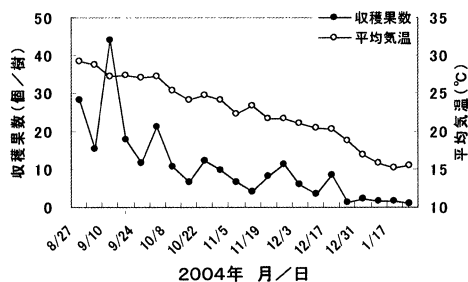


図3 気温と収穫果数の推移

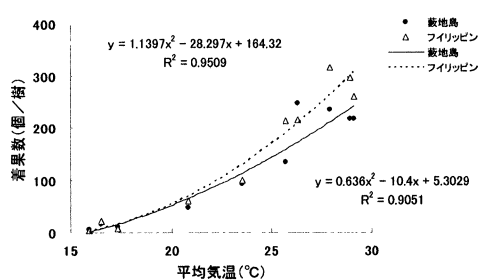


図4 気温と2ヵ月後の着果数との関係